

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
益子町	大沢・大平	R 3 年 3 月 1 2 日	年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	337ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	206.1ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	60.5ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	27.9ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	23.8ha
(備考)	

2 対象地区の課題

今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積は23.8haであり、後継者未定の耕作面積は27.9haとなっている。一方、アンケート調査結果から、中心経営体以外の農業者においても小規模ながら若干の規模拡大の意向がある農業者がいることから、これらの農業者も地域の担い手として位置付け、営農維持の支援や集積・集約化を図る必要がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体と併せて小規模農業者のうち規模拡大志向農業者にも集積を進め、地域の農地全体における営農継続を図る。

担い手を呼び込むため、土地改良の推進や耕作放棄地を増やさないう維持管理をする。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

獣害対策として電気柵・ワイヤーメッシュ柵を設置し、対策を充実させる。

将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は出し手・受け手に関わらず、農地を機構に貸し付ける。中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。